

第 3 回資料選定検討委員会（2019年7月26日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	回答（当日）	進捗・対応	備考
プロローグ	1 この施設がただの記念館ではなく、災害の記憶や経験をしっかりと「アーカイブ」し、学びや教育に用いるとともに未来につないでいくということを、来館者にどうやって伝えるか。そこが抜けている気がする。プロローグで発信してはどうか。			
	2 恐らく、この施設については色々な意見が出てくる。中には否定的なものも。ただ、そういう人たちを含め、5年10年経ったときに「あそこに行けば当時の出来事に想いを馳せられる」という認識を持ってもらう、そうして長く伝えていくのがこの施設の大きな役割。ぜひそういう点を意識してほしい。また、アーカイブ拠点施設の役割を伝えるのは、有料エリアより無料エリアのほうがよいのでは。	施設の位置づけを、プロローグやエントランスで見せるよう組み込むことは、現時点の工程で追加可能。組み込み方については、検討したい。	施設のコンセプトを伝える場合は、有料の展示エリア内ではなく、すべての来館者の目に触れるエントランス等としたい考え。エントランス周辺において、施設コンセプトを伝えられる方法（パネルなど）を検討中。	
	3 建物の入り口で、簡単なパネル・モニター等で施設の主旨・目的を説明するものがあるとよい。	施設の全体像を把握した上でプロローグに入っていくことが望ましいため、検討する。		
	4 プロローグを見て完結するのではなく、プロローグの映像に“課題”も含めて、さらに深く情報を知りたくなる仕掛けが必要である。			
	5 プロローグで調査・研究事業につなげられるアイデアがあるとよい。		プロローグ映像では各ゾーンの要素をピックアップして構成し、次に続く展示ゾーンへの期待を持たせる構成となるよう、映像の見せ方を検討している。	
	6 プロローグの映像の流れは問題ないと思う。最後の部分の見せ方で工夫してほしい。災害の表現として淡々と見せることは賛成。		第5回委員会では仮編集映像を確認いただく予定。	
	7 プロローグ映像は開館後に頻繁に入れ替えることは可能か。	技術的にも頻繁に更新することは難しい。現在の構成では廃炉のことなども触れていくが、細かい内容は扱わないようにし、頻繁に更新しなくても対応できる構成で考えている。		
災害の始まり (2-3 原子力発電所事故の発生)	8 チェルノブイリ、スリーマイル、JCO事故等との比較について、研究者ではない一般の方に説明するのは難しいのではないか。	検証的な意味を持たせるわけではなく、今回の事故のレベル感を認識してもらうための比較を想定している。委員の指摘と庁内意見を踏まえて説明の仕方は工夫したい。	今回の事故のレベル感を認識してもらうため、過去の事例を紹介するとともに、国際原子力事象評価尺度によるレベルにより、比較を行う方向で検討中。	
	9 配達されなかった新聞もあったが、被災した中で配達された新聞もあったため、扱いを検討してほしい。	実物のキャプション等で表現を工夫し、どちらも取り上げられる内容にする等、検討したい。	配達された新聞を展示する方向で修正。	※当時の新聞の展示について、申請手続き準備中。

第3回資料選定検討委員会（2019年7月26日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	回答（当日）	進捗・対応	備考
原子力発電所事故直後の対応 〈3-1 避難の開始〉	10 震災後改訂された防災計画についても、具体的に取り上げてほしい。震災時、いくら事前に訓練をやっている本番で役に立たないこともあった。そういったことを含め、スペースの問題があるにせよ、アーカイブ拠点施設が訪れる人々の震災への理解や将来に活かすうえで次につながるきっかけになってほしい。	具体的な事例を個別に紹介することは難しいと思慮されるが、詳細はどこで確認できるか誘導できる解説内容を検討したい。	解説キャプションの表現を工夫し、HP等へ誘導することが可能か検討を進めている。	
	11 詳しく説明できなくても次に繋げる仕掛けは必要になる。他のコーナーにおいてもこの視点は重要である。			
〈3-2 県内に広がる不安〉	12 避難の過程の部分で、「震災関連死」については取り上げる予定はあるか。福島県としては避けて通れないと考える。	どのコーナーで取り上げるか検討中。「3-1 避難の開始」または「3-2県内に広がる不安」での扱いを想定。	「3-1 避難の開始」または「3-2県内に広がる不安」での扱いを想定し、解説キャプション内容の精査を進めている。	
	13 地震、津波の被害状況のデータについては「2-2 東日本大震災～地震と津波の記録～」で扱うか。	映像とデータを組み合わせて構成予定。	-	
	14 ビッグデータの使い方について、津波時の避難など研究につなげるようにできるとよい。原発事故での避難もどうあるべきだったか、を示せるとよい。	前回委員会の御意見を踏まえ、詳細シナリオを再度検討している段階。今回いただいた御意見についても考慮し、検討していきたい。	車の位置情報等から集計されたビッグデータと合わせて、当時の避難状況について解説する映像を作成中。当時の状況を展示映像から知ってもらい、対策について考えるきっかけとなるよう、研修プログラムとの連携を行っていく。	
〈3-3 国内外の反応と支援〉	15 FUREのメンバーが収集している資料を考えると、このコーナーの実物収集資料はあまりないと思われる。また、双葉町が埼玉に避難されている時の資料は筑波大の白井先生の所に預けられていると思うが、その資料を借用して展示することもあるのか確認したい。	県で直接収集している資料もあるため、そちらも活用していきたい。また、県立博物館等との連携も想定している。次回の委員会に向けて詳しく検討していきたい。	第4回委員会では資料選定の方針について御意見を伺うため、リストはFURE収集済（または準備中）のものから作成している。県立博物館等との連携については、引き続き検討中。	
復興への挑戦 〈6-2 廃炉の今〉	16 廃炉の研究開発を進めるJAEAの3施設はイノベーション・コースト構想の廃炉研究分野の位置づけもある。廃炉の研究を見せる展示は考えられているか。廃炉の前向きな部分についても見せられると良い。	「6-3 福島イノベーション・コースト構想の取り組み」で3施設の紹介を検討している。個別の内容については、JAEAにも確認をお願いしたい。	「6-3 福島イノベーション・コースト構想の取り組み」のタッチパネル解説映像内で、廃炉研究及び3施設の紹介を予定している。JAEAの確認の上、紹介内容について検討を進めていく予定。	
〈6-4 みらいの街〉	17 作ったデータが形になったり残ったりするとよい。コンテストの実施、データの持ち帰り、HPでの紹介とか。			
	18 技術的に難しい部分はあるにしても、イベント時に成果品を披露するなど施設の運営上可能な形で対応できればよいのでは。	紙出力を検討したが、運営上のリスクを考慮し、出力版の持ち帰りはなしとすることとした。ただし、完成した街のデータを蓄積することは可能であるため、運用面も含めて検討したい。	蓄積したデータを活用できるよう、システム検討中。データの活用方法については、引き続き検討中。	
	19 データを保存するシステムは作っておいた方が良く、データを保存して二次的に使用する旨も表記した方がよい。			

第3回資料選定検討委員会（2019年7月26日）における展示に対するご意見・ご指摘事項

分類	ご意見・ご指摘	回答（当日）	進捗・対応	備考
	20 例えばVRを使い所要時間10分のうち8分で作って残り2分で実際に作った街中を歩けるようになると面白いのでは。	予算面も含めて可能かどうか検討する。	10分のゲーム終了後、完成した街の様子を確認することができるシナリオを検討中。	
〈6-5 チャレンジ！ふくしま（県民による復興への取り組み）〉	21 見学に来た県外の高校生がテレビ電話などを使い双葉郡の高校生に想いを伝えるといった双方向の仕組みが作れないか。震災を経験した人たちだけでなく、むしろ将来を担う若い世代の証言・発信を多く取り上げてほしい。 体験した人の言葉と同じように、災害を経験していない子ども・新しい世代が増えてきているため、そういった子たちの想いを発信することが大事になる。	展示内でテレビ電話等を行うことは難しい。ただし、研修事業の中で双方向の仕組みができるよう、検討したい。	展示見学やフィールドワークを含めた研修プログラム内で、ワークショップを行う予定。ワークショップの結果等について蓄積されたものを、企画展等に生かせる仕組みを検討中。	

